

会話の中で連続して使用される“这”の読音について

On the pronunciation of 这 (zhè/zhèi) repeatedly used in a conversation

藤 本 澄 江

概要 (Abstract)

本論は“这 (zhè) 花真香, 这 (zhèi) 花更香.”のように, 指示詞“这”が一連の会話の中で連続して複数回使用され, その読音が異なる場合の意味的機能の相違の有無を調べたものである. まず先行研究におけるこの問題の取り扱いを整理し, それに対して音声データによる検証を行った. その上で“zhè”と“zhèi”との差異を明らかにするために, 収集した例文を四つのパターンに分け, それぞれにおける“这”の指示対象に現れる意味的影響を考察した. その結果, パターン4における“zhèi”には, 指示機能の他に取り立て機能を持つことが明らかになった.

キーワード: 現代中国語, 指示詞, 这, zhè, zhèi

I. はじめに

1. 研究動機と問題意識

かつて民間学校で中国語講師として教鞭を執っていた頃, 机の上にある一冊の本を指しながら“这是什么?”と尋ね, “这是书.”との答を期待していたところ, “这个是书.”との答が返ってきた. 机の上には本しか置かれておらず, “这个是书.”という返答には違和感があった¹⁾. しかしなぜ“这个”が不適切であり“这”が適切なのかを客観的かつ明確に説明することができなかった. これが指示代詞に対して関心を持ったきっかけである. その後“这”と“这个”の相違を調べる過程で, 極めて興味深い例に遭遇した. たまたまつけていたテレビから“这 (zhè) 花真香, 这 (zhèi) 花更香.”という文が聞こえてきたのである. なぜ最初の“花”には“zhè”が使われ, 次の“花”は“zhèi”が使われたのか不思議に思った. ネイティブスピーカーに前後の“zhè”と“zhèi”を入れ替えた文で確認したところ, やはり, テレビと同じ“这 (zhè) 花真香, 这 (zhèi) 花更香.”の方がよりしっくりくると言われた. この経験から, “zhè”と“zhèi”には意味上の違いがあるのではないかと, “这”と“这个”の相違を調査する以前に“这”の読音による違いを明らかにすべきではないかという考えに至った. 本研究の目的

は“这”の読音“zhè”と“zhèi”に焦点を当て、両者に意味的機能の相違があるか否かを明らかにすることである。

2. 論文構成

管見の及ぶ限り，“这”の読音に関する先行研究は少ないが，“zhè”と“zhèi”に意味的機能の相違があるか否かを考察するため、まず先行研究の見解を整理し、それに対して音声データによる検証を行う。その結果を踏まえ、一連の会話の中で“zhè”と“zhèi”が連続して複数回使用されたとき、会話全体にどのような影響が現れるかを考察する。その結果を本研究の結論として提示する。

II. 先行研究

“zhè”と“zhèi”の読み方についての先行研究としては、少ないながら主に以下が挙げられる。
《现代汉语词典（第7版）》では

zhèi “这” (zhè) 的口语音。(1661 頁, “这 (這) zhèi” 条)

【筆者訳】 zhèi “这” (zhè) の口語の音である。

との記述にとどまり、《语法讲义》は

zhèi 是“这一”的合音 (85 頁, 最下行)

【筆者訳】 zhèi は“这一”の複合音である

としている。孙 (1982) は

原来 zhèi、nèi 和 něi 是 zhè yi (这一), nà yi (那一) 和 nǎ yi (哪一) 的合音。这种合音现象表现在书面上, 就是“这”“那”和“哪”直接与表量的词连写, 中间不写“一”。例如“这 (zhèi) 架飞机 | 那 (nèi) 架飞机 | 哪 (něi) 架飞机”。如果写上了“一”字, 则合音就被分解了, 还原为 zhè、nà、nǎ。例如“这 (zhè) 一架飞机 | 那 (nà) 一架飞机 | 哪 (nǎ) 一架飞机” (一部省略) 可见, 我们可以根据“这、那、哪”是否直接跟表量的词组合, 在“这 x”“那 x”或“哪 x”中间是否可以加“一”确定其读音 (57 頁, 6~13 行, 24~26 行)

【筆者訳】 zhèi, nèi, něi は zhè yi (这一), nà yi (那一), nǎ yi (哪一) の複合音である。これらの複合音現象が書面上において、すなわち zhè, nà, nǎ が量詞と直接連結するとき、“一”は表記されない。例: “这 (zhèi) 架飞机 | 那 (nèi) 架飞机 | 哪 (něi) 架飞机”。しかし、“一”が表記さ

れた場合、複合音は分解され、もとの読音のまま zhè, nà, nǎ となる。例：“这（zhè）一架飞机 | 那（nà）一架飞机 | 哪（nǎ）一架飞机”。（一部省略）よって、我々は“这，那，哪”が直接に量詞と連結しているかどうか，“这 x”，“那 x”，“哪 x”の間に“一”を入れられるかどうかによって読音を確定することができる

としている。周（1987）は、

它的书面语读音是 zhè，而在口语中更常用的是 zhèi。一般说来，zhè/zhèi 是构成书面语和口语对立的两种音型。在自然口语里，如果把 zhèi 说成 zhè，就显得不够协调，带书面语色彩。（13 頁，左 5～7 行，右 1～2 行）

【筆者訳】文章語では zhè と読み、口頭語では zhèi がより多く使われる。一般的に言えば、zhè と zhèi は文語と口語の対立した二つの音型であり、自然な会話において、zhèi を zhè と発音した場合、不調和となり、文語的な雰囲気 را 帯びる

としている。また、相原（1990）は、

北京口語においては、（一部省略）“这”は zhè ではなく zhèi と発音される。zhèi であれば“这个”zhèige の ge 音を飲み込んだ（“吞音”）現象とも解釈される（27 頁，左 20～26 行）

としている。《语法讲义》と孙（1982）の記述に従って“这（zhè）花真香，这（zhèi）花更香。”の複合音“zhèi”を分解すると，“这（zhè）花真香，这一（zhèyī）花更香。”となる。しかし、この文の“一”の後には“朵”や“些”といった量詞が必要とされ、量詞が省略された“这一（zhèyī）花更香。”は、現代中国語としては欠落した文となり意味をなさない。一方、相原（1990）の述べる吞音現象を適用すると，“这（zhè）花真香，这个（zhège/zhèige）花更香。”となり、文法上の欠落は認められないものの、後方の“这个”は“zhège”と読むのか、“zhèige”と読むのかという音声上の問題が残るほか、“zhèi”と“这个”の機能上の問題も検討する必要がある。相原（1990）は「“zhèi”が“这个”“zhèi”の“ge”の吞音現象」であると指摘するのみに留まっており、この主張には検証の余地が残されている。

III. 先行研究の検証

1. 《现代汉语词典（第7版）》と《语法讲义》の整理

まず、“这”の文法的機能、すなわち何と結合するか、また文中でどのような成分になるかについて、また、異なる文法的用法において“zhè”と読まれるか、“zhèi”と読まれるかについて、《现代汉语词典（第7版）》と《语法讲义》の説明を整理する。なお、《现代汉语词典（第7版）》は規範辞書であり、《语

法讲义》は記述的な言語学書であるため、両者を一律に比較することは妥当とはいえないかもしれない。しかし、規範辞書ということは既に多くの学者によって評価、承認された通説が記載されてあると見なすべきであるため、両者の比較が無意味であるとはいえないであろう。

《现代汉语词典（第7版）》は、

在口语里，“这”单用或者后面直接跟名词时，说 zhè（1660 頁，“这（這）zhè”条）

【筆者訳】口語において，“这”の単独使用あるいは名詞が直接後接するとき，“zhè”と読む

としている。一方、《语法讲义》では、

做主语时，zhè 和 zhèi（一部省略）都可以用。“这”（一部省略）单独做宾语，指事物不指人，例如：你瞧这！（86 頁，5～9 行）

（一部省略）

此时只能用 zhè，（一部省略），不能用 zhèi，（一部省略）

【筆者訳】“这”が主語となるとき，“zhè”と“zhèi”（一部省略）のいずれも使うことができる。“这”（一部省略）が単独で目的語となるとき，事物を指し，人を指さない。例えば，
你瞧这！

（一部省略）

では，“zhè”は使えるが，（一部省略），“zhèi”は使えない

としている。表1は両者の内容をまとめたものであるが，以下のとおり不一致が見つかる。

表1 《现代汉语词典（第7版）》と《语法讲义》の整理内容²⁾

	単独使用 主語 (人 / 事物)	単独使用 目的語 (人)	単独使用 目的語 (事物)	名詞が続く	量詞 / 數量詞 が続く
《现代汉语词典》	zhè ○ zhèi ×	? ?	? ?	zhè ○ zhèi ×	zhè ○ zhèi ○
《语法讲义》	zhè ○ zhèi ○	× ×	zhè ○ zhèi ×	? ?	? ?

周（1987）も

‘这’单用（单独充当句子成分）或者后面直接跟名词时，也常说 zhèi。例如：这你可说错了，他今天根本就没来 | 这孩子太不听话了 | 这是你的，你拿走 | 这苹果多几钱一斤？其中的‘这’都说成

zhèi（14 頁，左 2～6 行）

【筆者訳】“这”の単独使用（単独で文成分となるとき）あるいは名詞が直接に後続するとき，よく“zhèi”とも発音される．例えば，“这你可说错了，他今天根本就没来”や“这孩子太不听话了”，“这是你的，你拿走”，“这苹果多少钱一斤？”の中の“这”はいずれも“zhèi”と読む

と《语法讲义》と同じ見解である．しかし周（1987）の見解はデータによる分析を示しておらず客観的な根拠のある考察とはいえない．

2. 音声データによる検証

以下 3 節 1 項の表 1 について音声データに基づいて検証を行う．

2.1 使用した音声データについて

音声データはテレビドラマから収集した．ニュース番組やドキュメンタリー番組のナレーションからも音声収集を試みましたが，これらの番組では指示詞の使用頻度が低く，データがほとんど採れなかった．一方，テレビドラマは指示詞の使用頻度が高く，また日常生活の会話により近く，映像からも情報を読みとれることからテレビドラマに限定した．ドラマの選定に際しては，現代劇であること，学生生活や就職などの日常生活に準じた内容であること，また，標準的な言語を抽出するために出演者を一つの地域に限定しないことに留意した．その結果，《冰与火的青春》³⁾ が上記の条件全てに該当したため，これを音声データ収集の対象とした．《冰与火的青春》は 1 集およそ 45 分，全 44 集であり，データの収集合計時間数は約 1980 分（33 時間）であった．なお予備調査として《双城生活》⁴⁾（第 01 集～第 05 集）からもデータ収集をしたため，本研究での音声データは《冰与火的青春》全 44 集を中心とし，その他参考として《双城生活》（第 01 集～第 05 集），約 225 分間（約 3.75 時間）の文例を随時挙げることにする．

2.2 “zhè”・“zhèi”の単独使用

はじめに“zhè”と“zhèi”の単独使用について検証する．

表 2 “zhè”・“zhèi”単独使用比較

単独使用	“zhè”			“zhèi”		
	コト	モノ	ヒト	コト	モノ	ヒト
主 語	165	80	26	52	41	17
目 的 語	0	0	0	0	0	0
使用頻度	60.8%	29.5%	9.5%	47.2%	37.2%	15.4%
合 計	271			110		

（《冰与火的青春》（全 44 集）より）

表2から“zhè”と“zhèi”が単独で主語として使用される場合，“zhèi”より“zhè”が多く使われることがわかる。また“zhè”，“zhèi”ともにコト・モノ・ヒトを指すことが明らかになった。よって《現代汉语词典（第7版）》の「口語において，“这”の単独使用（あるいは名詞が直接後続するとき）“zhè”と読む」という記述は本研究で得られたデータに合わないことをひとまず確認しておく。

“zhè”と“zhèi”が単独で目的語になり得るかについては、単独で目的語となる文例が見つからなかったため、本論では“zhè”と“zhèi”はいずれも単独で目的語になる可能性が低いとひとまず結論するが、他のデータを用いた検証は今後の課題とする。

“zhè”と“zhèi”が単独で主語として使われる頻度から一つの現象が見てとれた。コトに関しては“zhè”の方がより多く使われるが、モノとヒトに関しては“zhèi”が僅かではあるもののより多く使われることである。この僅かな差に意味があるか否か、今後引き続き検討することとする。

ここでの検証で明らかになったことは次のとおりである。《現代汉语词典（第7版）》の記述に反し，“这”が単独で主語になるとき“zhè”と“zhèi”のいずれも使うことができる、またコト・モノ・ヒトのいずれも指すことができる、ということである。《現代汉语词典（第7版）》に記載されているとおり、また周（1987）が主張するとおり，“zhèi”は口語で使われる可能性が高いといえる。

2.3 名詞が後接する“zhè”・“zhèi”

次に名詞が後接する“zhè”と“zhèi”について検証する。

表3 名詞が後接する“zhè”・“zhèi”

	“zhè”	“zhèi”
名 詞	252	273
使用頻度	48.0%	52.0%
合 計	525	

（《冰与火的青春》（全44集）より）

若干ではあるが，“zhèi”の方が名詞との共起頻度が高く、これは《双城生活》（第01集～第05集）でも同じ傾向である。敢えて相違点をいえば，《双城生活》では“zhèi”の名詞との共起率が81.8%と圧倒的に高く，“zhè”のそれは18.4%と低かった。この二つの調査結果から，《現代汉语词典（第7版）》の記述に反し，“这”の後ろに名詞が続くとき“zhè”と“zhèi”いずれも使うことができると結論づけることができる。これは周（1987）が主張した「“这”の単独使用（単独で文成分となると）あるいは名詞が直接に後続するとき、よく“zhèi”とも発音される」と一致している。

2.4 “zhè”・“zhèi”と“一”との共起

続いて，“zhè”・“zhèi”と“一”との共起について検証する⁵⁾。《语法讲义》は「“zhèi”は“这一”の複合音である」とし、孫（1982）は「複合音現象が書面上において、すなわち“zhè”，“nà”，“nǎ”

が量詞と直接連結するとき，“一”は表記されない。（例文省略）しかし，“一”が表記された場合，複合音は分解され，もとの読音のまま“zhè”，“nà”，“nǎ”となる」としている。これが文章語についての見解であるのであれば，口語ではどうだろうか。

表4 “zhè”・“zhèi”と“一”+量詞との共起率

	“zhè”	“zhèi”
“这”+“一”+量詞	5	42
使用頻度	10.6%	89.3%
合計	47	

（《冰与火的青春》（全44集）より）

表4から“zhèi”の使用率の高さ是一目瞭然である。なお，《双城生活》（第01集～第05集）でも，“zhè”の使用率が15.3%，“zhèi”の使用率が84.6%とその差は明白だった。

表5 “zhè”・“zhèi”と“一”+名詞が共起した例

	“zhè”	“zhèi”
“这”+“一”+名詞	一生（2），一辈子	一辈子（9），一生（3），一刻，一角色

（《冰与火的青春》（全44集）より）

表5は“zhè”・“zhèi”と“一”+名詞との共起例である。“一生”は本来それ自体を名詞と考えるのが妥当であろうが，“辈子”が“前半辈子”や“后半辈子”と言えるのと同様，“生”も“前半生”や“后半生”と言えるので，ここではひとまず“一生”も“一”+名詞とした。その上で“zhè”と“zhèi”を比較した結果，“zhèi”の使用例の方が多いことがわかった。

表4と表5から，“这”と“一”が共起する場合，その後が量詞か名詞に拘らず，“zhèi”の使用率の方が高いとわかった。これは孫（1982）の見解である「“一”が表記された場合，複合音は分解され，もとの読音のまま“zhè”，“nà”，“nǎ”となる」は口語には該当しない，少なくとも“这”においては該当しないといえる。

2.5 “zhè”・“zhèi”と専用量詞との共起

表6は“zhè”・“zhèi”と専用量詞の共起である。“zhèi”と専用量詞が共起する頻度は“zhè”と専用量詞の共起よりはるかに高い。なお，《双城生活》（第01集～第05集）でも同じ傾向が見られ，zhè”と専用量詞の共起率は3.92%であり，“zhèi”と専用量詞の共起率は96.0%であった。

表6 “zhè”・“zhèi”と専用量詞の共起（“个”“种”“些”は除く）

	“zhè”	“zhèi”
専用量詞	36	248
使用頻度	11.6%	87.3%
合計	284	

（《冰与火的青春》（全44集）より）

3. 音声データに基づく“这”の読音（口語）

以上の音声データによる検証から、口語における“这”の読音を表7にまとめた。

表7 “这”の読音（口語）⁶⁾

	単独使用 主語 (人 / 事物)	単独使用 目的語 (人)	単独使用 目的語 (事物)	名詞が続く	量詞 / 数量詞 が続く
《现代汉语词典》	zhè ○ zhèi ×	? ?	? ?	zhè ○ zhèi ×	zhè ○ zhèi ○
《语法讲义》	zhè ○ zhèi ○	× ×	zhè ○ zhèi ×	? ?	? ?
本研究	zhè ○ zhèi ○	zhè ? zhèi ?	zhè ? zhèi ?	zhè ○ zhèi ○	zhè ○ zhèi ○
頻 度	zhè > zhèi	? ?	? ?	zhè < zhèi	zhè < zhèi

4. 音声データによって検証された“这”の読音

音声データによる検証の結果は以下のとおりである。

主語として単独使用される場合は“zhèi”より“zhè”が圧倒的に多く使われ、また、両者ともコト、モノ、ヒトを指し得る。なお、目的語としての単独使用は、“zhè”、“zhèi”ともに例が見つからなかったため、“zhè”と“zhèi”は単独では目的語になれないとひとまず結論し、更なる例文検索は今後の課題とする。

名詞が後接する“zhè”・“zhèi”について、今回使用した主な音声データでは“zhèi”の方が若干数値は高いものの、“zhè”も“zhèi”も大差なかった。しかし予備検証として《双城生活》（第01集～第05話）で収集したデータでは異なる結果を示しており、“zhèi”の使用率は81.5%と高かった。これらの結果を総合して考えると、名詞が後接する“zhè”と“zhèi”では、一般的に“zhèi”の方が使用率が高いといえそうだが、地域差の影響もあるかもしれない。

“zhè”・“zhèi”と数詞“一”との共起、専用量詞との共起は、《冰与火的青春》においても《双城生活》（第01集～第05話）においても“zhè”の使用率が10%代に留まる一方、“zhèi”の使用率は80%を超

えた。ここから、孫（1982）の見解である「“一”が表記された場合、複合音は分解され、もとの読音のまま“zhè”，“nà”，“nǎ”となる」は口語には該当しない、少なくとも“这”においては該当しないといえる。

最後に、3節2.2項の表2に見られた、コトに関しては“zhè”を、モノとヒトに関しては“zhèi”を多用するという違いは、“zhèi”の機能を理解する上で示唆に富むデータであると考えられる。この違いを今後の検討課題として残す。

IV. “这”の連続使用に関する考察

3節3項の表7は“这”が異なる統語環境で用いられた場合の読音（“zhè”・“zhèi”）を表している。本節からは、研究動機となった“这（zhè）花真香，这（zhèi）花更香。”のような、一連の会話の中で“这”（“zhè”・“zhèi”）が連続して複数回用いられた場合のそれぞれの読音が“zhè”であるか“zhèi”であるかによって、会話全体にどのような影響が現れるか、“zhè”と“zhèi”に意味的機能の違いがあるか否かを考察していく。

本節では、“这”の連続使用を以下の四つのパターンに分け、3節2.1項で紹介した音声データから収集した例文を文字化したもの⁷⁾に基づいてそれぞれの特徴を考察した。

パターン1：zhè……zhè……

パターン2：zhèi……zhèi……

パターン3：zhèi……zhè……

パターン4：zhè……zhèi……

いずれのパターンにおいても“这”が同一のコト・モノ・ヒトを指す例文が非常に限られているため、同一のコト・モノ・ヒトを指さない例文も含めて考察している。

1 パターン1：zhè……zhè……

例1	江 焱：	我当然不会了。凭我这（zhè）技术①，我这（zhè）体力②，我这（zhè）人品……③
例2	肖怿飞：	没问题，导演，我听懂了。演员嘛，放开。开放。秀一下，攀岩的劲儿哪儿去了？导演，您看着啊，这（zhè）肌肉①可好了。您看！您看！这（zhè）肌肉②，这（zhè）胸大肌③，这（zhè）脸庞④，多棒啊！就这（zhè）演员⑤到咱们组，咱这（zhè）戏⑥不火都难。是不是？
例3	肖怿飞：	嗨，阿姨，我跟您说，您可别羡慕他们。您看这（zhè）外面①这（zhè）空气质量②，啊，这（zhè）汽车的尾气③，它污染多严重啊！咱不能再给地球增加负担了。现在不有一句话吗，叫环保从我做起。
例4	阿 敏：	那你说几桌啦。按照你刚才说的两百人对吧。这两百人就是二十桌喽，哟，这是一个庞大的旅行团嘛。哎，你看啊，这（zhè）来的人①，这（zhè）飞机票②啊，火车票啊，住宿啊，还有啦。包括在上海的参观旅游这笔费用，开销可不小的。
	牛一蓓：	你说来说去不就钱的事嘛。如果资金有问题，我们女方可以承担。

例5	郝建国：	她她她也没说什么时候回来。
	牛一蓓：	没说。
	郝建国：	这(zhè)①还是我闺女吗，这(zhè)②不是白眼儿狼吗，这。现在就管上海他妈。太上赶子了吧。这(zhè)③哪像我郝爷的闺女呢，这，这。
	牛一蓓：	郝建国，这(zhè)④就是你闺女，热心肠。晚饭自己解决吧啊。
	郝建国：	嗨，嗨嗨，你。你干嘛去？
	牛一蓓：	哎呀，你就甭管我啦。

例1(《冰与火的青春》第1集)は主人公である江焱が自分の魅力を自慢げに話している場面である。連続して“这技术”，“这体力”，“这人品”と異なる名詞を並べてあるのを見ると、いずれも江焱が平等に伝えたい魅力であることがわかる。どれか一つの項目が突出しているわけではない。つまり、相対的に重要度が同等なものが並列されているのである。

例2(《冰与火的青春》第11集)は江焱の親友である肖怪飞が映画監督に江焱を推薦している場面である。“这肌肉”，“这胸大肌”，“这脸庞”と江焱の魅力を連続で並列して伝えている。その後も“这演员”と“这戏”を“zhè”で伝えているが、一方が強調されている印象を聞き手に与えない。よって、ここでも同等な項目が並列されていると考えられる。

例3(《冰与火的青春》第26集)は肖怪飞が林晓珑の母を説得しているときのセリフである。“这外面”，“这空气质量”，“这汽车的尾气”と外界の状況を一つ一つ挙げている。例1や例2と異なり賞賛する項目ではなく，“它污染多严重啊！”とあるように、大気汚染に対する懸念項目であるが、いずれの項目にも比重の差が見られない。

例4(《双城生活》第05集)は花婿側の代表である阿敏と花嫁の母である牛一蓓が結婚式について相談している場面である。“这来的人”，“这飞机票”と項目を一つ一つ指折りしながら数えていく並列形式である。なお、続く“火车票啊”，“住宿啊”には“这”が共起していないが，“这(zhè)火车票啊”，“这(zhè)住宿啊”と続けても不自然な印象は与えないであろう。

例5(《双城生活》第02集)は間もなく結婚する娘を心配する両親の対話である。例1～4は異なる名詞が“这”に後接した並列形式であるのに対し、例5の“这”は主語として単独使用され、同一の人物を指している文の並列形式である。花嫁の父である郝建国が“这还是我闺女吗”，“这不是白眼儿狼吗”，“这哪像我郝爷的闺女呢”といずれも“zhè”で娘のことを指し、非難している。夫が娘を非難するのをうけて、花嫁の母である牛一蓓は“这就是你闺女，热心肠”と“就”を用いて「これこそがあなたの娘」と強調して返した。しかし強調してはいるものの、“这”の発音は変わらず“zhè”である。これは郝建国が話す三つの文(内容)を客観的かつ総括的に受けたからと考えられる。つまり三つの文(内容)のうちのどれか一つに比重を置いて区別したのではなく、全てを平等に受けたために音の変化は生じなかったのだと考える。

以上、パターン1に見られる特徴は、並列形式で使われる傾向が強く、このため“zhè”によって指

し示された名詞や文の比重は均一であり、いずれかの項目が特に際立ってはいない、ということである。上で「“这(zhè) 火车票啊”，“这(zhè) 住宿啊”と続けても不自然な印象は与えない」と述べたが、この特徴によるものと考えられる。

2. パターン2：zhèi……zhèi……

パターン1が並列形式で使われる傾向が強く、指し示された名詞や文の比重が均一であるのならば、同様に同じ読音が続くパターン2はどうか考察していく。

例6	江 焱：	我以前玩，现在戒了。李总，不瞒您说，我个人建议你这个，还是别改大马力了。真的。像你这(zhèi)车①，如果入气量和排气涡轮不进行调整的话，别说速度，就连生命都很难保证，真的。别说我说话你不爱听啊，这(zhèi)车②看起来，虽然各项指标不够完美，但是却非常的平稳。俗话说得好，牵一发而动全身。如果只改一样的话，不但原有的性能得不到体现，反而会破坏了原有的动力。
例7	江 焱：	我是真不想在乎他呀。你是不知道，这(zhèi)人①跟我上辈子有仇似的。总是在我心情最不爽的时候出现。我有的时候甚至怀疑这(zhèi)人②是不是……。
例8	江 母：	你等等。夏冰，我觉得你和小焱这(zhèi)事儿①，你们俩应该分手了。是，是，这(zhèi)时候②我说这(zhèi)话③是不太合适。可是你看我儿子都折腾，折磨成什么样了，还有人样吗他现在，啊？你们俩在一起这么痛苦，那何必非得绑在一起呢？你说奶奶这(zhèi)事儿④出来以后，奶奶这(zhèi)事儿⑤出来以后，大家心里都有了疙瘩。在一起还有什么意思啊？
例9	夏 冰：	恐怕这(zhèi)①就是中介所谓的潜规则吧。你想啊，这(zhèi)中介②啊，他一个人手上有那么多套的房子。地段不同，价位不同，这房子③里的陈设，肯定也不同啊。那些家具呢，就算是在这个屋子里摆着，照样租不出好的价钱。所以这些中介就想啊，那我不如把这些家具放在好的地段的房子里，租上个好价钱，每个月能多挣个五六百。

例6（《冰与火的青春》第17集）は江焱が李总に対してスポーツカーの改造を助言している場面である。①②の“这车”はいずれも目の前にある同じ車を指している。①②は共に「あなたのその車」というように「他ではないあなたが所有しているその車」と強調している。しかし双方とも同等程度に強調しており、比重の違いは見受けられない。

例7（《冰与火的青春》第23集）は江焱が気に食わない人の文句を言っている場面である。①②の“这人”はいずれも同一人物を指している。例6と異なり、指示された人は目の前におらず、また非難する気持ちが見られる。しかし、①と②の一方が際立っているということではなく、いずれも同等程度の比重であると考えることができる。

例8（《冰与火的青春》第25集）は江焱の母が、江焱の彼女である夏冰に息子と別れるよう諭している場面である。①④⑤と三つの“这事儿”がある。①は江焱と夏冰が付き合っていることを指し、④⑤は夏冰の祖母が亡くなったことを指す。いずれも口に出すには憚れるが互いが認識していることである。②③は“这时候”と“这话”が並列された形式、あるいは対をなしている形式と考えることができる。だが、パターン1の並列と異なるのは、②③は「こんな時（葬式の時）にこんな話（別れ話）をするのは良くないのだけれど」と口に出すには憚れる、悲しみなどの負の感情が見られることである。

例 9 (《冰与火的青春》第 20 集) は夏冰が不動産仲介業の隠されたルールを分析している場面である。①の“这”は主語として単独使用され、コトを指している。“恐怕”からわかるように思わしくない「隠されたルール」である。更に“就”を用いて「これこそが仲介業者の隠されたルールだろう」と強調している。②の“这中介”には、仲介業者に対する偏見・先入観が読み取れる。話し手が①の「隠されたルール」に対して冷ややかな気持ちを持っているのと同じく、②にも「隠されたルール」に関係のある、あるいはルールを作った当事者である仲介業者に対して軽蔑の念があるとわかる。しかし①と②に比重の違いは見られない。

以上、パターン 2 に見られる特徴は、並列形式で使われているがパターン 1 ほど顕著な並列形式ではない、各名詞間の比重に大きな違いは見られない、同一のコト・モノ・ヒトを連続して指すとき、話し手の主観(強調、非難、悲しみ、軽蔑など負の気持ち)が含まれることが多いことである。

3. パターン 3 : zhèi……zhè……

次にパターン 3 を考察する。例 10, 11 は関連性を持たないコト・モノ・ヒトを指し、例 12, 13, 14 は同一のコトを連続して指している例文である。

例 10	夏奶奶：	哎哟， <u>这(zhèi) 鱼①</u> 怎么 <u>这(zhè) 鳃②</u> 没拿下去啊？你看看，你看。
例 11	林晓珑：	哎，妈，他不是 <u>这(zhèi) 意思①</u> ，他 <u>这(zhè) 人②</u> 说话就是这样，你可别往心里去。
例 12	罗 浩：	我真想亲眼看到他江长恩在狱中，听到这个消息时的表情。他处心积虑建立的金融王国就要垮台了。他精心培养的儿子，也会经过这一次的打击一蹶不振，彻彻底底地变成一个废物！我真想把这把利刃，亲手狠狠地插在他江长恩的心脏上！爸， <u>这(zhèi) 一切①</u> ，马上就要到来了。而且 <u>这(zhè) 一切②</u> 也证明了，我们高家，是不会输给他江家的。
例 13	郝京妮：	你激动什么嘛。这不证儿都领了吗，办婚礼是迟早的事儿呀。徐嘉惠他妈妈说了，下个月在上海举行婚礼，这不请你们去上海，商量婚礼细节吗。不是请你们去了吗。什么叫把你们搁哪儿。怎么啦，你不同意啊。
	郝建国：	我能不同意吗。我敢不同意吗。不，你 <u>这(zhèi) ①</u> 叫跟我们商量吗。你不是给我们下最后通牒吗。 <u>这(zhè) ②</u> 在商量吗。(牛一蓓阻拦)你不要拽我，不要拽我。
	牛一蓓：	行了行了，你，行了。结婚是好事儿。
例 14	郝京妮：	你说，我们自己把 <u>这(zhèi) ①</u> 事儿给办了，也没有通知大人们一声，我这心里还是有点儿怵。尤其是你妈妈。会不会为 <u>这(zhè) ②</u> 事儿记恨我。跟我死磕一辈子。说我把你拐走了。
	徐嘉惠：	不会不会。要说拐也是，我把你拐走的呀。再说了，大人们都希望咱们孩子好，啊。我妈就算是一时想不通，她过一阵子就能想明白，真的。妮儿，别把生活想那么复杂。其实很简单的。来。幸福就掌握在我们自己的手中。
	郝京妮：	说得有道理。只要我们幸福了，大人们就幸福了，来，为了我们的幸福，cheers!

例 10 (《冰与火的青春》第 24 集) は夏冰の祖母である夏奶奶が江焱の作った料理をけなしている場面である。①と②はそれぞれ関連性のない異なるものを指している。①は目の前にある「魚(料理)」を指し、②は「魚のえら」を指している。この例からは特に目立った特長が感じられない。いくつかあ

る料理のうちから魚料理を区別して①の“这(zhèi) 鱼”と指し、次にそのえらを指して②の“这(zhè) 鳃”と言った、それにすぎないとしか説明できない。

例 11（《冰与火的青春》第 26 集）は江焱のいところである林晓珑が怒る母を宥めている場面である。やはり関連性のない異なるものを指している。①は「彼はそういう意味で言ったのではない」とコトを指し、②は目の前にいる自分の彼氏である肖怪飞（ヒト）を指し、「彼はこういう言い方をする人なのよ」と言っている。この例にも目立った特長が見られない。①では怒る母に対して、「そういう意味ではない」と母の考えている意味と区別しているが、②は目の前にいる彼氏を単に指しているとは読み取れない。仮に②が“他这(zhèi) 人说话就是这样”であったのなら、目の前にいる彼氏を指すだけではなく、話し手の感情、特に負の感情も読み取れただろう、しかし②からはそこまでの情報を読み取れない。この場面では、彼氏である肖怪飞の心証を少しでも良くしようと林晓珑が努めているのがわかる。

例 12（《冰与火的青春》第 29 集）は罗浩が父親の墓の前で復讐劇を報告する場面である。同一のコトを連続して指している。①は前文を指しながらも、「これら一つ一つの復讐は間もなく実現する」と細分化して受けているのに対して、②では「これら全ては」と総括的かつ大雑把に受けている。①で話題を明確に提起し、②はそれを受けてそのまま会話を続けている。①で話し手は“zhèi”の指示対象を強く意識しながら話題として提起しているのに対し、②ではそれを総括的に受けて話をスムーズに続ける程度である。目立つ特徴が見当たらない例 10、11 と異なり、例 12 の特徴は顕著である。

例 13（《双城生活》第 05 集）は間もなく結婚する娘が両親である自分たちと相談もなしに、嫁ぎ先の義母とあれこれを決めてしまったことに対して、父の郝建国が怒りを爆発させている場面である。①はまさしく父郝建国が怒りを爆発させている瞬間であり、娘の「婚姻届を出した」「来月上海で結婚式を挙げる」「結婚式典の段取りは上海で決める」などの一方的な通知に、「これら一つ一つを私たちと相談しているとでも言うのか」と郝建国は不満をこぼし、娘をひどく非難している。これに対して、②では「これら」と一連のやり方を総括的に受ける程度で会話を続けている。一つ一つに焦点を当てていないのである。①は怒りが爆発する瞬間であるため、非難の強さや怒りの強さはいうまでもなく②より強い。①が指示対象に大きな比重を置き意識して際立たせているのに対し、②は話をスムーズに続ける程度の機能しか持たない⁸⁾と考えられるのは例 12 と同様である。例 12、13 の①に見られるこの機能を本論では「取り立て」機能と呼ぶことにする。ここでいう「取り立て」は概略

日本語記述文法研究会（2009）

とりたてとは、文のある要素をきわだたせ、同類の要素との関係を背景にして、特別な意味を加えることである（3 頁、下から 11 ～ 12 行）

や

寺村（1991）

文中のいろいろな構成要素をきわだたせ、なんらかの対比的効果をもたらす（13 頁、下から 11 ～ 12 行）

の「文のある要素をきわだたせ」、「文中のいろいろな構成要素をきわだたせ」に近い⁹⁾。

例14（《双城生活》第04集）は両親と相談することなく婚姻届を提出したカップルの会話である。新婦である郝京妮は両親と相談することなく婚姻届を提出してしまった自分たちの行動を反省し、新郎の徐嘉恵に相談している。①と②はいずれも「婚姻届を提出してしまったこと」を指す。①で話題を提起し、②でそれを受けて会話を進めている。話題提起は聞き手にインパクトを与えるため、“zhèi”の取り立て機能を用いている。

以上、パターン3には以下の特徴が見られる。前方と後方が異なるコト・モノ・ヒトを指すときは特筆できる特徴がないが、前方と後方が同一のコト・モノ・ヒトを指すとき、前方が取り立て機能を用いた話題導入で比重が大きいのに対し、後方はそれを受けてそのまま自然に文を流しているのが特徴である。

4. パターン4：zhè……zhèi……

本研究の動機となった“这（zhè）花真香，这（zhèi）花更香。”のパターンであるが、収集した範囲内では例文が限られていた。

例15	客人A：	这（zhèi）①化妆品靠谱吗？
	江 焱：	可以。随便用，随便用。
	客人B：	那我试试。
	江 焱：	这（zhè）②都是温和不刺激的，纯中药的。
	客人C：	我可以试用一下吗？
	江 焱：	哎，这（zhèi）③可好了这个。那个，这（zhèi）④是我们主打的产品。灵芝系列，吸取天地之精华，发挥日月之灵气。把你的手拿出来给我看一下。来，好。
	客人A：	谢谢。
例16	阿 敏：	那你说几桌啦。哦，按照你刚才说的两百人对吧。这（zhè）①两百人就是二十桌喽，哟，这（zhèi）②是一个庞大的旅行团嘛。哎，你看啊，这来的人，这飞机票啊，火车票啊，住宿啊，还有啦。包括在上海的参观旅游这笔费用，开销可不小的。
	牛一蓓：	你说来说去不就钱的事嘛。如果资金有问题，我们女方可以承担。

例15（《冰与火的青春》第13集）は働く経験がなかった江焱が化粧品売り場でたくさんの女性客を相手に化粧品販売をする場面である。①は顧客がたくさんいる中、客人Aは自分が質問したい化粧品を他人の話す化粧品と区別して“zhèi”で取り立てて伝えている場面である。これに対し、たくさんの女性客に対応している江焱は、客人Aが質問した化粧品と客人Bが試すと言った化粧品を一ジャンルとして総括し、「これらは全て肌に優しく無刺激の漢方化粧品である」と“zhè”で答えた。特定の化粧品に限定したのではない根拠として“都”を使ったことが挙げられる。その後、客人Cも試してみたいと伝えと、それまでは閑古鳥が鳴っていた売り場が活気づき、調子を上げた江焱が自分がプロモーションしなくてはならない化粧品を取り立てて、他の化粧品よりも優れているとアピールする場面が“zhèi”を用いた③と④である。③で“可（好了）”を使っていることから江焱が強調しているとわかる。

例 16¹⁰⁾（《双城生活》第 05 集）は花婿側の代表である阿敏と花嫁の母である牛一蓓が結婚式について相談している場面である。女性側の出席者数が二百人であると牛一蓓から伝えられた阿敏はひどく驚き、“这（zhè）来的人”，“这（zhè）飞机票”とパターン 1 を用いて一つ一つの項目を並べ、客観的データをもって牛一蓓を説き伏せようとする。これに対してパターン 4 の①では、牛一蓓が提起した“两百人”というデータを、阿敏がまず“zhè”で総括的かつ客観的に指示した後、テーブル数（“二十桌”）に換算して「もはや結婚式参列者ではなく、とてつもなく大きな旅行団体じゃないの」と“zhèi”を用いて驚く。「もはや結婚式参列者ではなく」「とてつもなく大きな旅行団体」であることを取り立てて際立たせている。“庞大的”から驚きの大きさとそれを強調しているのがわかる。なお、本例文に見られるパターン 1 とパターン 4 の使い分けこそ“zhè”と“zhèi”に意味的機能の違いがあるという根拠といえよう。

以上、パターン 4 に見られる特徴は次のとおりである。前方と後方が同一のコト・モノ・ヒトを指すとき、前方の“zhè”が総括的に指すのに対して、後方の“zhèi”は単に指すだけではなく、区別されたコト・モノ・ヒトとして取り立てる。“zhè”が指示機能であるのに対して、“zhèi”はその他に取り立て機能も備わっている。これによって文の流れに変化が生じ、“zhèi”で指示されたコト・モノ・ヒトはより際立たされる。

この特徴に基づくと、パターン 4 に属する“这（zhè）花真香，这（zhèi）花更香。”は、前文の“这（zhè）花真香”が総括的に花を指しているのに対し、後文の“这（zhèi）花更香。”はある特定の花を取り立てて他と区別して指していると分析できる。目の前にバラ園がありバラが咲き乱れているとする。バラには芳香のバラもあれば香りの無いバラもあるが、目の前のバラが香りの良い多数の品種であるとき、これらを総括的に指して“这（zhè）花真香”と言う。しかし、中でもひと際芳香を放つ品種があり、他のバラよりも更に香りが良いと伝えたいとき、他の品種と区別して強調しながら伝える必要があるので、取り立て機能を用いて“这（zhèi）花更香”と言う。こう考えれば、“zhè”と“zhèi”を入れ替えた“这（zhèi）花真香，这（zhè）花更香。”に対してネイティブスピーカーが違和感を持つことは理解できる。“zhè”と“zhèi”を入れ替えると意味をなさないのである。なお、上で仮に「目の前のバラが香りの良い多数の品種である」としたが、一種類の香りの良い品種であっても構わず、それに対して“这（zhè）花真香”と言った場合も、その一種類のバラを総括的に指示しており、続けて“这（zhèi）花更香”と言えば、その中の一株あるいは一輪は更に香りが良いと特に区別していることになる。

V. 結論

4 節で考察したパターン 1～4 のそれぞれの特徴は以下のとおりである。これを本研究の結論として提示する。

パターン 1 は並列形式で使われる傾向が強く、並べられた各名詞間、各文間の比重は均一である。

パターン 2 も並列形式で使われるが、パターン 1 ほど顕著な並列形式ではない。並べられた名詞間の

比重に大きな違いは見られない。また、同一のコト・モノ・ヒトを連続して指すとき、話し手の主観、つまり強調や負の気持ち（非難、悲しみ、軽蔑など）が含まれていることがパターン 1 との顕著な違いである。

パターン 3 において前方と後方が異なるコト・モノ・ヒトを指すとき特筆できる特徴はないが、前方と後方が同一のコト・モノ・ヒトを指すとき、前方が話題導入であるのに対して、後方はそれをそのまま受けて続けていく傾向が強い。このため前方と後方の比重が異なり、前方は比重が大きく、後方では自然に文が流れていき、大きな比重を感じられないのが特徴である。

パターン 4 において、前方と後方が同一のコト・モノ・ヒトを指すとき、前方が総括的に指すのに対して、後方は単に指すだけではなく、指されたコト・モノ・ヒトが取り立てられる。つまり、前方が指示機能であるのに対して、後方は指示機能の他に取り立て機能も備わっている。これによって文の流れに変化が生じ、後方で指示されたコト・モノ・ヒトはより際立たされる。パターン 3 とは反対に後方が比重は大きい。パターン 1 ～ 4 において、文の流れの変化や比重の大きさの違いが顕著に感じられたのはパターン 4 のみであった。

木村（2012）は以下のとおり主張している。

“这／那”は、むしろ、それ自身何らの範疇概念も担わず、専ら指示概念のみを担う語だと理解されるべきである。それはあたかも方向を指示するための矢印や指さしのように、対象（事物）のありかを知らせるべく、それを「指し示す」だけの役割を担うものであって、それ自身が、指し示された先の対象（事物）を「表し示す」ものではない。（一部省略）現場指示と文脈指示の別を問わず、“这／那”の機能は一に「指す」ことのみであって、それ以上でもそれ以下でもないのである。（17 頁，17 ～ 22 行，12 ～ 26 行）

これに対し本研究は、“这”の指示機能を担うのは“zhè”であり、“zhèi”は指示機能に留まらず、他と区別する取り立てて機能が備わっていると考ええる。“zhè”と“zhèi”には機能的な違いがあり、両者を分けて考えるべきである。

“zhèi”はパターン 4 を離れても取り立て機能が備わっているのであろうか。備わっているとすればどのような言語的・非言語的環境下においてなのか、引き続き考察、検証していく必要がある。

本稿は 2015 年度に日本大学大学院文学研究科に提出した修士論文をもとに加筆・修正したものである。

注

- 1) 筆者は小学生時代まで中国東北地方で育ち、その後も一定の中国語環境に触れている。本論中の中国語例文に対する意味的判断や聴き取りについては筆者の語感に依ったが、必要に応じて信頼できるネイティブスピーカーに確認するようにしている。

- 2) 「○」はその形が存在すると認定していること, 「×」は存在しないと認定していること, 「?」はその事項について触れていないことを意味する.
- 3) Youtube“China zone 剧乐部”チャンネル《冰与火的青春》第1集～第44集. https://www.youtube.com/playlist?list=PLtt_YYUGilgXK6PuanZclqMUO4A5qkn5B (再生リスト)
- 4) 大米影院《双城生活》第01集～第32集. https://www.youtube.com/playlist?list=PLtt_YYUGilgXK6PuanZclqMUO4A5qkn5B (第01集～第32集へのリンクあり)
- 5) “这”の後には“一”以外の数詞“二, 两, 三, 四, 五, 四, 六, 七, 八, 九, 几”が続く可能性があるが, 使用した音声データからは十分な例が得られなかったので本論では取り扱わず, 更なるデータ収集後の検討課題とする.
- 6) 「○, ×, ?」の意味はそれぞれ注2と同じ. 但し“zhè”・“zhèi”に付した「?」は本研究で例文を見つけれなかったことを示す.
- 7) 動画の字幕による. 但し音声と字幕が完全に一致していない場合は筆者の聴き取りによる.
- 8) 但し例13の②には今現在目の前で起きている「娘の態度 (少しも悪いと思っていない態度, 親に歯向かっている様子)」に対する非難も感じられる.
- 9) 但し日本語記述文法研究会 (2009) の「同類の要素との関係を背景にし」や寺村 (1991) の「なんらかの対比的効果をもたらす」は, 何らかの同種の集合を前提とし, そのメンバーと対比させるという機能を含んでいると考えられる. 例えばよく「取り立て助詞」等と称される「も」や「だけ」に見られる
(リンゴ以外の果物も食べたが) リンゴも食べた
(リンゴ以外の果物もあったが) リンゴだけ食べた
等の機能である. 本論での「取り立て」は必ずしもこの機能を含まない.
- 10) 本節1項に例4として既出.

参考文献

- 藪崎淳子 2017 「『取り立て』再考」, 『日本語教育』166号, 日本語教育学会, pp. 15-30
中国社会科学院语言研究所词典编辑室 2016 『现代汉语词典 (第7版)』商务印书馆
加藤晴子 2014 「代名詞 (代词)」, 冲森卓也・蘇紅 (編) 『日本語ライブラリー 中国語と日本語』朝倉書店, pp. 1-8
木村英樹 2012 『中国語文法の意味とカタチ―「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究―』白帝社
日本語記述文法研究会 2009 『現代日本語文法 5 第9部とりたて 第10部主題』くろしお出版
方梅 2002 「指示词“这”和“那”在北京话中的语法化」, 『中国语文』第4期 (总第289期)
陆俭明 1999 「“这是……”和“这个是……”」, 『语言教学与研究』第2期
寺村秀夫 1991 『日本語のシンタクスと意味 第Ⅲ巻』くろしお出版
相原茂 1990 「論壇“这”“这个”および“这块”など」, 『中国語』No. 362, 内山書店, pp. 26-29
周一民 1987 「口语“这 那 哪”的语音变异」, 『汉语学习』第2期 (总第38期), pp. 13-14
朱德熙 1982 『语法讲义』商务印书馆
孙永根 1982 「“这、那、哪”的两种读音」, 『汉语学习』第3期 (总第9期), p. 57